

(その三)

工場又は事業場の名称	JNC石油化学株式会社 市原製造所
------------	----------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策1	対策2	対策3	対策4	対策5	対策6	対策7	対策8	対策9	対策10
5 2	5 3	5 4	5 5						

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

平成23年においてポリプロピレン製造施設4系列の内、第1系列である2BCポリプロピレン製造設備を計画通り廃止し、これに伴いノルマルヘキサンの使用及び排出量が削減されております。停止に伴う効果は平成25年度にも現れており、平成12年度に排出しておりましたVOC量に対し、30%の削減率を維持することが出来ます。

備考 3(2)に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策1	対策2	対策3	対策4	対策5	対策6	対策7	対策8	対策9	対策10
5 2	5 3	5 4	5 5						

(その三)

工場又は事業場の名称	電気化学工業株式会社 千葉工場
------------	--------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1 9	3 1	3 9	4 1	5 1	5 3	5 6			

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

【対策1】について
・塩ビテープの粘着剤の溶剤をトルエンから水系エマルジョンへ変更する。
【対策3】について
・ポリスチレン、AS樹脂、MS樹脂等の製造プロセスを、バッチ重合法からVOC排出量の少ない連続重合法へ転換する。

備考 3(2)に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1 9	3 1	3 9	4 1	5 1	5 3	5 6			

(その四)

工場又は事業場の名称	極東石油工業合同会社 千葉製油所
------------	---------------------

3 基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) 基準年度における処理回収率等

	基準年度			
	平成12年度			
使用量 (kg/年度) (1億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。)	7	7	×	09
排出等の量 (kg/年度)	8	0	0	0
処理回収率 (%)		1	0	0

基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数(基)

--	--	--	--

備考

- この項の提出は任意であること。
- 基準年度は、2(1)の基準年度と一致させること。
- 使用量及び排出等の量は、2(1)の基準年度におけるものと一致させること。
- 処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字2桁で記載すること。

$$\{ (\text{使用量} - \text{排出等の量}) / \text{使用量} \} \times 100$$

(2) 基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策1	対策2	対策3	対策4	対策5	対策6	対策7	対策8	対策9	対策10
5	2								

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

基準年(平成12年度)以前から、充てん出荷施設に吸収法処理装置を設置しており、千葉県大気汚染緊急時対策要綱に定められた期間(4~10月)の稼働を実施しています。平成15年度からは通年として処理装置を稼働しています。また、高揮発性有機化合物の屋外貯蔵タンクにおいては、当初より浮き屋根式屋外貯蔵タンクまたは内部浮き蓋付屋外貯蔵タンクを採用して建設しています。

備考 この項の提出は任意であること。

(その三)

工場又は事業場の名称	日本リファイン株式会社 千葉工場
------------	---------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
2	1	2	9	3	2	5	2	9	1

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策 2 について

屋外貯蔵タンクの品種変更の為の洗浄乾燥の際に、親水性の有機溶剤を水洗により回収した後、乾燥する手順を遵守する。

備考 3 (2) に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
2	1	2	9	3	2	5	2	9	1

(その四)

工場又は事業場の名称	三菱製鋼株式会社 千葉製作所
------------	-------------------

3 基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) 基準年度における処理回収率等

	基準年度				
	平成12年度				
使用量 (kg/年度) (1億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。)	1	8	0	0	0
	× 10				
排出等の量 (kg/年度)	7	5	0	0	0
処理回収率 (%)	58				

基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数(基)

--	--	--	--

備考

- 1 この項の提出は任意であること。
- 2 基準年度は、2(1)の基準年度と一致させること。
- 3 使用量及び排出等の量は、2(1)の基準年度におけるものと一致させること。
- 4 処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字2桁で記載すること。

$$\{ (\text{使用量} - \text{排出等の量}) / \text{使用量} \} \times 100$$

(2) 基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策1	対策2	対策3	対策4	対策5	対策6	対策7	対策8	対策9	対策10
2	2	3	4	5	1	5	4	9	1
					9	9			

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策6について	<ul style="list-style-type: none"> ・塗装膜厚管理を管理値の下限に近づく様に改善した。 ・塗装仕様を客先と打合せて変更した(重ね塗り回数の削減)。

備考 この項の提出は任意であること。

(その四)

工場又は事業場の名称	ティー・エム・ターミナル(株) 市原事業所
------------	-----------------------

3 基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策
 (1) 基準年度における処理回収率等

	基準年度						
	12年度						
使用量 (kg/年度) (1億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。)	2	2	0	0	0	0	0
排出等の量 (kg/年度)			2	1	0	0	0
処理回収率 (%)			1	0	0		

基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数(基)	0
---	---

備考

- この項の提出は任意であること。
- 基準年度は、2(1)の基準年度と一致させること。
- 使用量及び排出等の量は、2(1)の基準年度におけるものと一致させること。
- 処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字2桁で記載すること。
 $\{ (使用量 - 排出等の量) / 使用量 \} \times 100$

(2) 基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策1	対策2	対策3	対策4	対策5	対策6	対策7	対策8	対策9	対策10
5	1								

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

備考 この項の提出は任意であること。

(その三)

工場又は事業場の名称	宇部興産株式会社 千葉石油化学工場
------------	----------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 9	3 1	3 9	5 4	9 1	4 9	5 1			

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策1について 昨年度に引き続き、脱臭入口VOC濃度を測定し4系列の負荷調整を行なうと伴に、廃ガス処理温度と脱着/吸着サイクルの管理を徹底させ、脱臭塔出口からのVOC物質の放出量を削減する。また、別系統のRHガスは脱臭装置送り禁止を継続する。
対策3について ポンプ更改等によりシール部からの微量漏れの是正を継続的に進めていく。
対策6について 屋外タンク貯槽でベントがオープンになっているタンクの窒素シール化を推進する。

備考 3(2)に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 9	3 1	3 9	5 4	9 1	4 9	5 1			

(その三)

工場又は事業場の名称	東レ・ファインケミカル株式会社 千葉事業場
------------	--------------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

(1) の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
2 1	3 1	3 9	4 9	5 2	5 3	5 4	5 7		

その他（19, 29, 39, 49, 59, 99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策 3 (39) 屋外タンクから原料中間タンクへの補充方式を液面一定で補充することに設備変更を行い、原料中間タンクの受け入れ時の排出ガス削減を継続中。
対策 4 (49) タンクローリーからの受け入れ排出制御のベーパーリターンラインを設置済み。

備考 3 (2) に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1) の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
2 1	3 1	3 9	4 9	5 2	5 3	5 4	5 7		

(その四)

工場又は事業場の名称	東レ・ファインケミカル株式会社 千葉事業場
------------	--------------------------

3 基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) 基準年度における処理回収率等

	基準年度						
	年度						
使用量 (kg/年度) (1億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。)	3	1	0	0	0	0	0
							× 10
排出等の量 (kg/年度)			1	4	0	0	0
処理回収率 (%)							100

基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数(基)				
---	--	--	--	--

備考

- この項の提出は任意であること。
- 基準年度は、2 (1) の基準年度と一致させること。
- 使用量及び排出等の量は、2 (1) の基準年度におけるものと一致させること。
- 処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字2桁で記載すること。

$$\{ (\text{使用量} - \text{排出等の量}) / \text{使用量} \} \times 100$$

(2) 基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策1	対策2	対策3	対策4	対策5	対策6	対策7	対策8	対策9	対策10
2	1	3	1	4	9	5	2	5	3

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

<p>対策3 (49)</p> <p>酸化エチレン貯槽の圧力制御の圧力範囲変更(一定圧から圧力に幅)により、受入時の大気放出量の抑制を図った。</p> <p>タンクローリーからの受け入れ排出抑制のベーパーリターンラインを設置した。</p>

備考 この項の提出は任意であること。

(その三)

工場又は事業場の名称	東レ株式会社 千葉工場
------------	----------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
4 9	5 6	5 2							

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

1. 対策1について アクリロニトリルタンク設置時、タンクベントにコンデンサーを取り付け-20℃に冷却して、アクリロニトリルの蒸気を凝縮させてタンクへ戻している。

備考 3 (2) に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
4 9	5 6	5 2							

(その四)

工場又は事業場の名称	東レ株式会社 千葉工場
------------	----------------

3 基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) 基準年度における処理回収率等

	基準年度						
	平成12年度						
使用量 (kg/年度) (1億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。)	2	7	0	0	0	0	0
	× 10						
排出等の量 (kg/年度)		2	4	0	0	0	0
処理回収率 (%)	99						

基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数(基)

--	--	--	--	--	--	--	--

備考

- 1 この項の提出は任意であること。
- 2 基準年度は、2(1)の基準年度と一致させること。
- 3 使用量及び排出等の量は、2(1)の基準年度におけるものと一致させること。
- 4 処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字2桁で記載すること。

$$\{ (\text{使用量} - \text{排出等の量}) / \text{使用量} \} \times 100$$

(2) 基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策1	対策2	対策3	対策4	対策5	対策6	対策7	対策8	対策9	対策10
4	9								

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

<p>1. 対策1について</p> <p>アクリロニトリルタンク設置時、タンクベントにコンデンサーを取り付け-2.0℃に冷却して、アクリロニトリルの蒸気を凝縮させてタンクへ戻している。</p>
--

備考 この項の提出は任意であること。

(その三)

工場又は事業場の名称	出光興産株式会社 千葉製油所
------------	-------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

(1) の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
3	9	4	1	5	2				

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

(対策 3 9 について) 従来、粗ベンゼンは弊社他事業所へ船転送し処理していましたが、平成13年6月以降、当事業所内処理に切り替え、海上出荷に伴うVOC排出量を削減します。
(対策 4 1 の補足説明) ナフサ等揮発性有機化合物は浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに貯蔵し、貯蔵に伴うVOC排出量を削減します。
(対策 5 2 の補足説明) タンクローリー充填・出荷施設では、VOC回収設備の高回収率運転を行い、タンクローリー充填・出荷に伴うVOC排出量を削減します。

備考 3 (2) に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1) の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
3	9	4	1	5	2				

(その四)

工場又は事業場の名称	出光興産株式会社 千葉製油所
------------	-------------------

3 基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策
 (1) 基準年度における処理回収率等

	基準年度				
	平成12年度				
使用量 (kg/年度) (1億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。)	1	2	×10	10	
排出等の量 (kg/年度)	6	20	000	0	
処理回収率 (%)			100		

基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数(基)	3
---	---

備考

- この項の提出は任意であること。
- 基準年度は、2(1)の基準年度と一致させること。
- 使用量及び排出等の量は、2(1)の基準年度におけるものと一致させること。
- 処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字2桁で記載すること。

$$\{ (\text{使用量} - \text{排出等の量}) / \text{使用量} \} \times 100$$

(2) 基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策1	対策2	対策3	対策4	対策5	対策6	対策7	対策8	対策9	対策10
4	1	5	2						

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

(タンクローリー充填・出荷施設のVOC回収実績について)
弊所ではVOC回収に積極的に取り組んでおり、タンクローリー充填・出荷施設のVOC回収設備を平成2年3月に設置しました。当該設備は、VOC回収率90%以上の実績を誇り現在も順調に稼動しており、VOC排出量削減に大きく寄与しています。

備考 この項の提出は任意であること。

(その三)

工場又は事業場の名称	ライオン株式会社 千葉工場
------------	------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

(1) の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
1 9	3 9	5 3	9 9						

その他 (1 9, 2 9, 3 9, 4 9, 5 9, 9 9) を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策 1 について ・原料使用量低減によるVOC発生量の削減。
対策 2 について ・合成洗剤製造工程の改善によるVOC発生量の削減。
対策 4 について ・界面活性剤の製造条件改善及び合成洗剤中の組成改善によるVOC発生量の削減。

備考 3 (2) に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1) の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
1 9	3 9	5 3	9 9						

(その四)

工場又は事業場の名称	ライオン株式会社 千葉工場
------------	------------------

3 基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) 基準年度における処理回収率等

	基準年度					
	平成12年度					
使用量 (kg/年度) (1億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。)	8	0	0	0	0	0
	× 10					
排出等の量 (kg/年度)	3	2	0	0	0	0
処理回収率 (%)	9.6					

基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数(基)					0
---	--	--	--	--	---

備考

- 1 この項の提出は任意であること。
- 2 基準年度は、2 (1) の基準年度と一致させること。
- 3 使用量及び排出等の量は、2 (1) の基準年度におけるものと一致させること。
- 4 処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字2桁で記載すること。

$$\{ (\text{使用量} - \text{排出等の量}) / \text{使用量} \} \times 100$$

(2) 基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策1	対策2	対策3	対策4	対策5	対策6	対策7	対策8	対策9	対策10
5	3	9	9						

その他 (1.9, 2.9, 3.9, 4.9, 5.9, 9.9) を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策2について

・界面活性剤中の組成改善による、VOC発生量の削減。

備考 この項の提出は任意であること。

(その三)

工場又は事業場の名称	住友化学株式会社 千葉工場
------------	------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
5	2	5 6	5 9						

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策 3
①当千葉工場の高圧ポリエチレンのペレットサイロから排出される酢酸ビニルについて、サイロの排出ベント配管を、ボイラーの燃焼空気に接続して酢酸ビニルを燃焼させている。平成19年10月に工事が完成し、平成20年2月より処理を開始した。
②エチレン工場のプロセスガスクロベントの大気放出からフレアーに接続(焼却) 13台のプロセスガスクロの改造を、平成23年10月に完成して、11月から使用開始した。
③高圧ポリエチレン工場の酢酸ビニルタンクのベントラインをフレアーラインに接続して焼却する工事が平成24年2月に完成して、9月から使用開始した。

備考 3 (2)に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
5	2	5 6	5 9						

(その三)

工場又は事業場の名称	三井化学株式会社 市原工場
------------	------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 3	3 1	3 2	3 4	5 1	5 2	5 3	5 4	5 5	

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

備考 3(2)に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 3	3 1	3 2	3 4	5 1	5 2	5 3	5 4	5 5	

(その三)

工場又は事業場の名称	三井造船株式会社 千葉事業所
------------	-------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
1 2	1 9	2 2	5 4						

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策 2 について
建造船居住区内(屋内)で使用する塗料の一部を水性塗料へ切替え
※ 国際海事機関による船舶建造のルール変更により、平成24年以降の建造船は塗装基準の強化(塗装膜厚が従来の1.4倍)により、塗装面積あたりの塗料の使用量は増加している。
対策
塗装作業時の効率的運用、水性塗料の使用範囲拡大、船主への低VOC塗料への切替え提案等により更なる排出量削減を目指す。

備考 3(2)に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
1 2	1 9	2 2	5 4						

(その三)

工場又は事業場の名称	出光興産株式会社 千葉工場
------------	------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
3	1	4	1	5	1	5	9		

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

・出光興産(株)千葉工場では、これまでに固定屋根式タンクを内部浮屋根式タンクへ変更および、排出ガス中の揮発性有機化合物を吸着回収する設備の設置等により大気中への排出量を減少してきた。
・平成21年度はポンプ軸封からの飛散を減少させるために、軸封の改善を行った。
・目標年度(平成22年度)の排出量計画は当初、120,000kgにしていたが、2年に1回の定期補修工事に伴うロス量を新たに計上することで排出量計画値を140,000kgへ改めた。
・対策4について、平成24年度にポリカーボネート装置の排水ストリッパ改造を行った。
・平成26年度の排出量は施設の停止や稼働率の低下等で平成25年度実績対比で30%程度減少する見込み。
以上

備考 3(2)に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
3	1	4	1	5	1	5	9		

(その三)

工場又は事業場の名称	コスモ石油株式会社 千葉製油所
------------	--------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策1	対策2	対策3	対策4	対策5	対策6	対策7	対策8	対策9	対策10
4	1	5	2	5	9				

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策2の第1陸上出荷場(ローリー出荷)及び第2陸上出荷場(タンク貨車出荷)における揮発油の積み込み時に発生するVOC対策としてVOC回収装置(吸収溶剤:灯油)を既に設置しており(第1出荷:昭和63年、第2出荷:平成2年)、現在はこれを維持・管理しています。また、対策3のその他として、少しでもVOC吸収を改善する為に、夏期に吸収設備に冷却散水を実施しています。また、対策1として原油、揮発油(製品ガソリン、中間ガソリン、ナフサ等)、JET燃料のタンクは全て浮き屋根式及び内部浮き屋根式であり、VOC対策は本条例の基準年度以前に全て完了しており、これらのVOC対策済タンクの維持を確実に実施して行きます。

備考 3(2)に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策1	対策2	対策3	対策4	対策5	対策6	対策7	対策8	対策9	対策10
4	1	5	2	5	9				

(その四)

工場又は事業場の名称	コスモ石油株式会社 千葉製油所
------------	--------------------

3 基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) 基準年度における処理回収率等

	基準年度				
	平成12年度				
使用量 (kg/年度) (1億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。)	9	7	×	10	09
排出等の量 (kg/年度)	3	9	0	0	00
処理回収率 (%)	100				

基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数(基)				
53				

備考

- この項の提出は任意であること。
- 基準年度は、2(1)の基準年度と一致させること。
- 使用量及び排出等の量は、2(1)の基準年度におけるものと一致させること。
- 処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字2桁で記載すること。

$$\{ (\text{使用量} - \text{排出等の量}) / \text{使用量} \} \times 100$$

(2) 基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策1	対策2	対策3	対策4	対策5	対策6	対策7	対策8	対策9	対策10
4	1	5	2	5	9				

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策1：原油、半製品、製品の揮発性の高い油種の貯蔵タンクは、全て浮き屋根式及び内部浮き屋根式タンクを使用しており、現在、これらの維持・管理を継続しています。
対策2：陸上出荷場（第1出荷場：ローリー出荷、第2出荷場：タンク貨車出荷）における揮発油の出荷口において、全てVOC回収を実施すべくVOC回収装置を設置。現在も、これらの維持・管理を継続しています。
対策3：対策2を少しでも改善する為、夏期において、冷却散水を実施します。

備考 この項の提出は任意であること。

(その三)

工場又は事業場の名称	大洋塩ビ株式会社 千葉工場
------------	------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策1	対策2	対策3	対策4	対策5	対策6	対策7	対策8	対策9	対策10
2	9	3	1	5	9	9			

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

【対策1】について 安定操業により現状を維持する。
【対策3】について 廃液処理塔を設置し、スチームストリッピングにより排水中の塩ビモノマーを回収する。
【対策4】について タンク解放前に窒素で置換し、塩ビモノマーガスを回収する。 ※平成26年度は、塩ビガスホルダー開放点検による排出量4,500kg見込む
イの【対策4】について タンク解放前に水張りを実施し、塩ビモノマーガスを回収した。

備考 3.(2)に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策1	対策2	対策3	対策4	対策5	対策6	対策7	対策8	対策9	対策10
2	9	3	1	5	9	9			

(その三)

工場又は事業場の名称	東洋スチレン株式会社 五井工場
------------	--------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 9	3 1	5 1							

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

【対策1】について 生産工程からの発生(揮散)を減少させる。

備考 3(2)に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 9	3 1	5 1							

(その三)

工場又は事業場の名称	富士電機株式会社 千葉工場
------------	------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1 1	2 1	2 9							

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策 1 について 溶剤の低含有塗料による製品塗装の適用拡大
対策 2 について 溶剤缶の揮発防止蓋の取り付けと励行(指導と実施状況の監視)
対策 3 について 上塗り残塗料の転用(中塗り塗料として使用率の向上、事業所設備の塗装) 及びシンナー回収機による、廃溶剤からのシンナー回収 廃シンナーの回収(リサイクル事業者に売却)

備考 3(2)に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1 1	2 1	2 9							

(その三)

工場又は事業場の名称	五井化成株式会社株式会社 本社工場
------------	----------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
5 1	5 2	5 9							

その他（1 9， 2 9， 3 9， 4 9， 5 9， 9 9）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策について 平成19年度5月、VOC吸収装置を設置。

備考 3 (2) に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
5 1	5 2	5 9							

(その四)

工場又は事業場の名称	五井化成株式会社 本社工場
------------	------------------

3 基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) 基準年度における処理回収率等

	基準年度								
	平成12年度								
使用量 (kg/年度) (1億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。)	1	5	0	0	0	0	0	0	.
	× 1 0								
排出等の量 (kg/年度)			1	1	0	0	0		.
処理回収率 (%)	1 0 0 .								

基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数(基)

--	--

備考

- 1 この項の提出は任意であること。
- 2 基準年度は、2 (1)の基準年度と一致させること。
- 3 使用量及び排出等の量は、2 (1)の基準年度におけるものと一致させること。
- 4 処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字2桁で記載すること。

$$\{ (\text{使用量} - \text{排出等の量}) / \text{使用量} \} \times 100$$

(2) 基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
5	1	5	2						

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

--	--

備考 この項の提出は任意であること。

